

意見要旨	説明・回答要旨
<p>・区の役員について、ここ数年コロナがあつて会議が簡素化されたり書面決議になっている。これは良い機会であつたとも思う。元に戻すという考え方もあるかもしれないが、せつかくの機会なので無理のない範囲で簡素化できていたので、そのまま継続してもらえればと思う。</p> <p>・3月末にパートナーシップの会議に出席し、初めて参加したのでとてもハードルの高い話をしているなどと思う中で、中学生のスピーチがあり、それがとても前向きなよい考えを持ったものであつた。良い勉強ができたと思っていたが、8月の会議に出席したら3月のメンバーと変わっており、聞いてみると各地区の協議会の会長は複数年受ている人が多く、2年目以上の方がほとんどだつた。複数年やれということではないが、複数年やってある程度知識を持った人でなければ、ただ聞いて勉強するのに精一杯で意見を言う事はできないと思う。なので、この役は2年3年の複数年任期でやりますとうたって、きちっと枠に当てはめた方がスムーズに回っていくのではないかと感じた。</p>	<p>(市長) 茅野市のパートナーシップのまちづくりは20年以上やってきて、市民も自負をもっていると思うが、ここである程度総括しなくてはならない時期にきていると考えている。おっしゃるとおり、茅野市内各地区で全てやり方が違うのだが、外から見ると同じにやっているかのように見える。そこを検証していく必要があると思う。</p> <p>(パートナーシップのまちづくり推進課長) 今年度の会議は、パートナーシップのまちづくりの再構築をテーマとしている。この体制を始めて25年経過して成果が出ているところと上手くいかない所が多々ある。パートナーシップのまちづくりは3つの柱である福祉・環境・教育分野の皆さんとのパートナーシップと、地域コミュニティの皆さんとのパートナーシップと大きく分けて2つあるが、地区コミュニティの運営協議会も、地区により動きが違っており、活発なところとそうでないところがある。今後皆さんと話をしながら、どのような方法が望ましいか一緒に検証したいと考えている。</p> <p>(市長) 従来のパートナーシップのまちづくりは、行政で考えて各地区に落とし込んでいく手法が多かったが、そうではなく、行政が用意した補助金などのメニューの中から各地区が必要なものを選ぶようなボトムアップ方式にしないと上手くいかないだろう。あとは、なんとなくお金があるので何かやらなきゃという雰囲気も正直あるのでは。そういったところを見直すことで、財政的にも本当に必要なところに持っていきたりするので、今後検討したいと考えている。</p>

意見要旨	説明・回答要旨
【パートナーシップのまちづくりについての説明】	<p>(副市長) パートナーシップのまちづくりの見直しで、市長が起点にしているのが公民館活動である。公民館は公共の場に住民が学んで活動していく市民活動と、地域コミュニティを大事にする原点である。任期については複数年やると、次の年に改革しようと考えられたりやりやすい面もあるが、単年任期であることによって、今の体制は何か違うなという気づきに繋がるなど、様々考え方はあると思う。公民館活動の原点に戻って見直すという意味では、米沢は分主会の会長さんが運営協議会の会長さんなので、ある部分モデルになると思うのでまた参考にさせていただきたい。</p> <p>(市長) 茅野市は公民館活動が盛んで、地域課題を皆で勉強して実際行動してというようなことをしており、年1回の研修会で横の知り合いもできた。なのでパートナーシップのまちづくりを始めた時にも上手く機能して今日にいたっている。ただ、20年経過する中で公民館活動の人材輩出の部分が弱くなってしまっているのも、そういったところをもう1度てこ入れしないといけないなど考えている。今、中学生が公民館活動に関わろうとしているので、その辺りのお話を校長先生にお願いしたい。</p>
【学校における取組みについての説明】	<p>(北部中学校校長) 今年度生徒会を中心に、学校と地域との関係をもう1回見直すということで様々活動している。その中で、公民館の皆さんとの関係を作りたいということで、夏休みに米沢地区の公民館を中心に北部中学校区の公民館に働きかけをしていただき、寺子屋のような形で、小学生に中学生が夏休みの宿題などを学習指導する機会を設けていただいた。地域との関わりや小学生との繋がり持てて、大変感謝している。まだ成果となるには少し時間がかかるかもしれないが、今後も公民館との繋がりを大切にして行きたいと思っている。</p> <p>(教育長) この活動には、大人の代わりということではなく、子ども自身が一人の市民であり、茅野市を作っていきたいという気持ちがある。この間のは公民館の防災に関わって総合防災訓練に30人参加した。実際中学生に何ができるかは未知数だが、心をつなぐことはできる。茅野市の場合、昼間は若い世代が働きに出ているので60歳、70歳の人口が増えてくる。昼間に何かあった時にいくらか役に立てるのは中学生であり、茅野市の教育の目標である、自分の人生、自分たちのまちの未来を思い描くことで段々形になってくると思うが、子どもたちを仲間として入れてほしい。</p>

(米沢地区) 地区・区における役員の成り手不足、地区役員の負担軽減

意見要旨	説明・回答要旨
<p>役の成り手について、家事等忙しい中で大変かとも思うがある程度負担を少なくした上で、女性の登用も大事だと思う。</p>	<p>(市長) あちこちの地区でそういった意見が出ている。これからは男性だ女性だという時代ではなくなってくると思っている。女性にもしつかり社会に出て働いて欲しい。そうなると、保育所で未満児を預けたい人への対応をしたり、新しいニーズがでてくるので、そういった女性が働ける環境整備をしっかりとしていかないと、簡単には出てこれないと思う。</p>
<p>ぜひそういった視点で進めていただきたい。女性は男性とは違った視点でお話ができると思う。公民館の役員会でも、女性の意見が通った催し物が大成功したので、女性の意見は重要だと改めて勉強させていただいたところである。</p>	<p>(パートナーシップのまちづくり推進課長) 区の役員の負担軽減担い手不足について、現在の市の取り組みをお話をさせていただきたい。今年の7月に区長会長会でお話をさせていただき、見直し事項として市からのお願い事項と、区・自治会の役職・業務運営方法を挙げさせていただいた。モデル区を募集し私達と一緒に検討して、方向性を出したいと思っている。先ほどお話があったが、コロナが良いきっかけで、今までどおりではないやり方を考えていきたい。女性役員の登用についても、区の中の役員の選出方法を掘り下げて、どうすれば女性役員が増えるのか、増えたあとも負担軽減を図りDX等活用しながら望ましい方向はどのような形なのか、皆さんと検討していきたいと考えている。</p> <p>(企画部長) 区の業務の見直しを実現するための道具がDXだと思っている。資料の中の見直しの方向性にもDX化の推進と書かせていただいているが、今の通信手段であるSNSやLINEを区・自治会の新たな仕組みに導入する取組を試験的に行う。モデル区で実験して、上手くいけば他の区にも展開していきたい。</p>

意見要旨	説明・回答要旨
<p>【D Xを活用した負担軽減取組についての説明】</p>	<p>(市長) デジタル化というと明日からすぐ変わってしまう、大変な事のようにとらえがちだが、そういうものではない。今スマートフォンやインターネットで予約できているホテルも前までは全て電話予約で、切替え当時は電話で確認の問合せがきたりしていたが、デジタルとアナログを併用しながら今はネット予約が普通のことになっている。なので、今から準備をしておいて、デジタル化が普通の時代になった時でも対応できるまちなしておく事が大切だと考えている。 今「デジタル田園健康特区」という形で、D Xを活用し将来の茅野市の医療を充実させて、医師不足看護師不足の時代にもサービスをきちっと提供でき安心して暮せる状態にしたいと考えている。今、6市町村の小児夜間診療のオンライン化の実証実験を行っているところでもある。</p> <p>(企画部長) 夜間の診療相談について、窓口をインターネット上に作り、スマートフォンからすぐに相談できる体制の実証実験を行うものである。11月辺りから、今学校で導入しているリーバーというアプリを使って、ご案内したいと考えている。</p>

(米沢地区) 学校の統廃合について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>児童生徒数の将来推計のお話があったが、表の中で小学生の児童数はどんどん減っているが、中学校の児童数があまり減っていないように見えるがどういうことか。</p>	<p>(学校教育課長) 中学校で児童数の変化が出てくるのは令和11年以降となるため、現段階でお示した表の中には数字として現れてきていない。</p>
<p>例えば泉野小学校や米沢小学校は顕著に減ってくるということだが、クラスの人数が少ないと子ども達の交流は少なくなってしまうと思う。また、統廃合したら通えなくなるという問題も出てくると思うので、その時はスクールバスを出すなど考えなくてはいけないと思うが、経費の比較など、検討はしているのか。</p>	<p>(市長) 今も、金沢など離れたところにはスクールバスを出している。学校を建てるのはそれなりにお金がかかるので、スクールバス等確保した方が財政的にも安価にはなるのだろうと予測はしている。</p>

(米沢地区) 少子化対策について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>財政がひっ迫しているという中で、少子化も問題になると聞いている。外から移住してくる、住んでもらえる対策をしているのか。あと、色々な企業が来てもらえるような施策を持っているのかお聞きしたい。</p>	<p>(市長) まず移住交流事業を一生懸命やっており、東京にある県の機関である銀座NAGANOや、移住交流促進機構などで茅野市のプレゼンテーションをし、そこで登録をしてくれた方に年4回の移住交流ツアーのご案内を出し、物件案内やシーズンに合わせた体験をしてもらっている。毎回沢山の方が参加してくださり、その中で移住を決めた方もいる。また、豊平のグリーンヒルズヴィレッジも令和4年に完売した。これも、そういった事業を地道に行ってきたからではないかと考えている。次は空き家対策で、移住を希望する方に提供できるシステム作りのための情報収集をしているところである。企業誘致に関しては色々なところに営業に行っている。「デジタル田園健康特区」にエントリーするだけで国や県、他自治体や企業の目に留まり、様々な売りこみが来る。そういったご縁の中で、東京都狛江市とカーボンクレジット協定を結び、市民交流も含めて動いている。また、府中市からは13校の小学校の皆さんが学習旅行に来てくれて自然体験などを行っている。また、立川市はIT企業が多いため、今商工会議所を通じて交流を深め、そこから茅野市に営業所を作ってもらえないか検討したり、茅野市でテレワークをしながら、月に数回東京に行くような仕組み作りを検討しているところ。</p>
<p>私の子どももこちらに帰って来て仕事に就きたいが、企業が少ないのでなかなか難しいと感じている。テレワークについては、富士見町や原村にもそのような場所があると聞いたので、茅野市でも進めていただきたい。</p>	<p>(市長) 駅前のベルビアにもワークラボ八ヶ岳というコワーキングスペースがあり、他地域から来てくれる人の拠点となり、若い経営者などが茅野市に良い影響を与え始めてきている。また、市内別荘の管理事務所にコワーキングスペース補助金を出しており、今10か所ほど作られている。別荘に来ている人や、会社で茅野に来ている人も、そこで仕事ができるというような体制作りを整えているところである。</p>